

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	高級レストラン （スタッフ）	来客数の動き	・前年と比較すると、来客数は約950名減少しており、決して良いとは言えない状況ではあるが、3か月前と比較すると、来客数は約2200名増加しており、数字だけを見れば上向きである。
	やや良く なっている	商店街（代表 者）	お客様の様子	・バーゲン時期ということもあり、これまで買い控えをしていた客も購買意欲がやや高まっている。また、近隣の百貨店の売り尽くしセールに伴って、自店にも客が流れてきている。
		家電量販店（店 長）	販売量の動き	・エコポイント制度の効果もあり、薄型テレビの販売台数が前年比200%と好調なほか、冷蔵庫や洗濯機も前年比140%台で推移している。一方で、冷夏の影響で季節商材が軒並み前年比50%前後で推移しているほか、OA機器や携帯電話も低迷している。
		乗用車販売店 （営業担当）	販売量の動き	・国からの補助金で、環境対応車購入時の取得税、重量税が免税になることから、客に購買意欲が出てきている。
		その他専門店 【医薬品】（経 営者）	単価の動き	・個人消費は低迷していると言われていたが、個人差がかなり大きくなっており、全体的には、ここ数年と比べて売上がやや良くなっている。
		高級レストラン （スタッフ）	来客数の動き	・今月は週末のディナーが常に満席となるなど、売上が前年比で15%増加している。北海道洞爺湖サミットの影響であまりにも売上が悪かった前年の反動もあるが、ディナーの売上はランチタイムを大幅に上回っている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・雨の日が多かったことから、売上は3か月前に比べて約20%伸びている。今年は競馬の開催が無いため、当初は全く期待していなかったが、前年並みの売上となっており、底打ちしたとみられる。
		通信会社（企画 担当）	販売量の動き	・前年よりも通信機器の販売量が大幅に増加している。また、道内企業からの設備投資に関連した受注も好調に推移している。
		観光名所（職 員）	来客数の動き	・観光シーズンに入ったこともあるが、道内外の観光客が増加傾向にあり、来客数は3か月前と比べて、128%の増加となっている。ただし、前年との比較では、利用客が減少しており、前年比は88.5%となっている。
		美容室（経営 者）	来客数の動き	・以前よりも客の来店周期が短くなったことから、今月の売上は前年を2%程度上回っている。
変わらない	商店街（代表 者）	来客数の動き	・毎週、雨天の日が多かったことから、商店街への無料バス運行の効果も薄かった。大型店の食品売場の改装による周辺への集客効果もみられなかった。また、観光客が減少していることから、飲食店では不振が続いている。	
	商店街（代表 者）	お客様の様子	・夏の最盛期であるが、天候不順に水を差されている部分が多い。客の慎重な買い方は依然として続いているが、季節商材の売行きは少しずつ前年並みに近づいてきている。	
	商店街（代表 者）	お客様の様子	・客の反応をみても、3か月前と比べて変化がみられない。	
	商店街（代表 者）	販売量の動き	・今月は天候不順の影響を受けて、衣料品店で夏物衣料の販売が低調であった。そのほかの業種においても、売上の増加は特にみられなかった。	
	一般小売店【土 産】（経営者）	来客数の動き	・100年に1度の不況というキャッチコピーが与える悪影響に加えて、新型インフルエンザの過剰報道、天候不順のトリプルパンチとなり、人が外出する機会自体が減っている。	
	一般小売店 【酒】（経営 者）	販売量の動き	・3か月前と比べると売上自体は悪くないが、前年と比べると5%程度落ち込んでおり、決してまだ良い状態とは言えない。	
	百貨店（売場主 任）	単価の動き	・セール中心の商品展開となっていることもあるが、それにしても1人当たりの客単価が大幅に低下している。	

	百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・セールの規模を拡大したこともあり、売上面では手ごたえを感じるものの、客単価の低下は継続している。低価格商品であっても、時間をかけて吟味して必要な数だけ買うという購買スタイルが定着している。また、降雨が例年になく多いためか、肌寒く感じるようで、羽織物など汎用性のある商品が価格の安さと相まって動いている。同様の理由で、旅行客の買物も昨年より多くなっている。
	百貨店（役員）	販売量の動き	・お中元は前年並みの実績となっている。客単価、買上点数共に前年を下回っているが、来客数が若干伸びている。
	スーパー（企画担当）	お客様の様子	・和牛や寿司など、価格の高い商品や家庭でも作れそうな総菜類の売行きが相変わらず悪い。
	家電量販店（店員）	販売量の動き	・エコポイント制度の効果で、薄型テレビ、冷蔵庫などは、前年を上回る販売台数となっている。
	家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・エコポイント制度の効果で、薄型テレビや大型冷蔵庫の販売は順調に推移しているが、一方で、パソコンや携帯電話が不振である。更に、梅雨のような天候の影響で、扇風機やエアコンなどの季節商材の需要が前年の半分にまで落ち込んでいる。全体としてはほぼ横ばいの状態となっている。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・自社の販売量は、相変わらず前年を下回って推移しており、景気回復を実感できない状況にある。ただ、地域全体での販売量は前年並みとなっており、回復基調となっている。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・今月は徐々に前年比でプラスとなったが、全体的には横ばいでの推移となっている。観光客は増えているが、総選挙前のためか地元客が少ない。
	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・7月上旬は若干持ち直したように見えたが、後半は伸びがみられず、結果的に前年を下回った。観光シーズンの時期だが、まだ客に観光を行うだけの余裕が無く、帰省までもが控えられているのか、夏休み期間の予約状況も悪い。
	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・夏休み時期に入っているが、依然として予約の低調な状態が続いている。道内客、道外客を問わず、特に家族客を中心とする個人客が伸び悩んでいる。
	旅行代理店（従業員）	単価の動き	・来客数は回復しつつあるが、新しく発売される、より価格の安い商品に向かう傾向が強い。
	タクシー運転手	来客数の動き	・7月の売上は相変わらず前年を下回っているが、雨の日が多かったせいか、1～6月の上半期と比べてマイナス幅が縮小している。
	タクシー運転手	来客数の動き	・相変わらず電話での注文数が減少している。
	観光名所（役員）	来客数の動き	・国内及び海外の団体客が引き続き落ち込んでいることに加えて、梅雨のような天候不順から個人客の動きも悪くなっており、入込客が減少している。
	設計事務所（所長）	競争相手の様子	・建築業界は全くといっていいほど仕事が無くなっている。わずかに動いていた案件もペンディングになることが多い。公的融資も受けられず、廃業を迫られている同業者も多くみられる。
やや悪くなっている	スーパー（店長）	販売量の動き	・今月は自社競合も含めて売出しセールが多く、他店にかなりの客が流れたため、販売量が減少した。
	スーパー（店長）	単価の動き	・単価が前年比90～95%となっており、低下傾向が続いている。ワインなどの高額品の動きも悪い。また、買上点数も増えず、来客数も横ばいとなっているため、売上も確保できず、利益率も下がっている。
	スーパー（店長）	単価の動き	・客単価が前年よりも7%近く低下しており、客の生活防衛意識に変化はみられない。来客数、販売点数は伸びているものの、客単価の低下分まではカバーできていない。
	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・5月の中旬以降、来客数の落ち込みが大きくなっている。特売などの値引き販売が集中する週末にまとめ買いをする頻度が増える一方で、平日のちょっとした買物の頻度が減っている。
	スーパー（役員）	単価の動き	・不況に加えて、多雨の影響により、来客数が前月よりも4ポイント前後低下しており、更に状況が悪くなっている。既存店ベースでの客単価は前年比101.7%、買上点数が前年比106.1%、商品単価が前年比95.8%となっている。

	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・悪天候となったことから、夏型商品の伸び悩みがみられる。また、ここにきて自動車産業の派遣社員削減が進んでいることから、製造業の回復傾向とは逆に、消費減退の流れが感じられる。
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・7月は雨が続いていることから、来客数が低調に推移している。また、気温の低下から飲料水やアイスクリームの販売量が大幅に減少するなど、買上点数の減少が目立っている。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・環境対応車向けの減税効果が落ち着いてきたこともあり、全体の市況が縮小傾向にある。
	観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・旭山動物園や富良野などへの観光は顕著な伸びがみられるものの、道内全体での宿泊販売数は、前年比で2けたのマイナスで推移している。全体的には、国内経済の低迷、新型インフルエンザや円高の影響などにより、国内客、海外客共に観光需要は低迷している。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・個人旅行の動向をみると、国内旅行は取扱人員数が前年比91%、売上が85%となっており、海外旅行は取扱人員数が前年比104%、売上が前年比87%となっている。法人需要については、回復の兆しがみられない。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・新型インフルエンザに対する過剰反応は沈静化したが、延期になった案件がまだ実施されていない。また、地域経済の先行きの不透明感から、夏休み需要も法人需要もすべて「安・近・短」傾向が強くなっており、日帰りや1泊の旅行が目立っている。このため、売上也減少している。
	美容室（経営者）	販売量の動き	・6～7月と売上が減少しており、前年実績を割り込んでいる。
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・前年と比較して来客数が約1割減少している。
悪くなっている	百貨店（売場主任）	単価の動き	・7月に入り、クリアランスセールがスタートしたが、来客数はほぼ前年並みとなっている一方で、単価の低下が目立っており、売上が非常に厳しい。スーツやジャケット関連などの紳士服の販売量が3割程度落ち込んでいるほか、婦人服の単価が低下している。中元については、前年並みで推移している。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・7～9月にかけての販売額をみると、9月の国内旅行が前年比116.6%と前年を上回ったものの、それ以外は前年を大きく下回っている。また、取扱件数や取扱人員数についても、9月以外は低調に推移している。
	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・住宅業界では、4～5月の受注はまずまずであったが、6～7月の受注が急減している。
企業動向関連	-	-	-
	食料品製造業（団体役員）	受注量や販売量の動き	・消費の節約傾向の強まりから、中元ギフトや食料品の販売量及び単価が前年を下回っているものの、高品質商品や高級商品のニーズが高まっており、今年2月以降、前年比で下降線をたどっていた売上が底を打っている。
	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・請負物件の動きが活発になってきている。
	金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・先月までと比べて、見積の量がやや増えている。
	金属製品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べると良くなってきている。出荷ベースの前年比も3か月前と比べて出荷率が高くなっている。
	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・景気浮揚を狙った補正予算により、地域医療再生計画や公共建築物耐震化を対象とした計画策定や診断業務が多く発注されており、関係スタッフが多忙を極めている。
	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べて、販売量も、販売につながるような問い合わせも明らかに回復してきている。ただし、あくまで最悪期との比較であり、回復途中という段階である。

	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前の受注量が前年比でマイナスであったのに対して、7月の受注量は前年比でプラスに転じている。	
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・先行きへの不安材料が多いせいか、必要な物を必要な量しか買わない企業が多く、消耗品の販売量が伸びてこないが、全体としては良くなってきている。	
変わらない	金融業（企画担当）	それ以外	・大型景気対策の効果で、土木建設業や家電量販店は持ち直している。しかし、天候不順や新型インフルエンザの影響などで、最盛期を迎えている観光関連業界は低迷している。雇用環境は厳しく、夏季賞与も減少しており、個人消費は冷え込んでいる。	
	司法書士	取引先の様子	・不動産や建物等の取引について、特に著しい変化はみられない。依然として低水準で推移している。	
	司法書士	取引先の様子	・相変わらず住宅やマンション着工数が減少しているほか、不動産取引も減少している。	
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・取引先の状況を見ると、前年実績を下回っている取引先ばかりである。	
やや悪くなっている	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・低価格商品、廉価商品に押されて、今まで通常販売していた商品の受注が減っている。	
	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・天候不順により、農作物の生育に影響が出てきている。小麦は減収必至であり、水稻は不稔の恐れがあり、じゃがいもはかびによる疫病が発生している。	
	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・発注元の大手企業が利益を確保するため、原価を低減させる目的から、中国、東南アジアの企業への発注にかじを取り始めており、国内の下請企業への発注量が激減している。	
悪くなっている	司法書士	取引先の様子	・建物の改築があるものの、不動産の売買、建物の新築は減少したままである。	
雇用 関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・今年に入ってから、求人件数は前年比で30～35%の大幅減少が続いていたが、今月は25%の減少となり、ここ数か月と比べて改善している。ただ、前年比がマイナスとなるのは32か月連続であり、前年比がプラスとなった業種もほとんどないことから、最悪の状況にあることには変わりがない。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・企業からの求人数が伸び悩んでいる。IT関連の求人も停滞し、コールセンターの求人が目立つ程度である。幹部職の求人については堅調だが、採用の基準が高くなっており、相当スキルが高くないと採用されない傾向にある。派遣の需要も事務系の派遣依頼が停滞しているほか、流通業者からの派遣依頼の減少が目立っている。家電メーカーからの派遣依頼も不況に伴い利用を絞り込んでいる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・農産物の収穫に伴う1次加工及び2次加工の求人は増加傾向にあるが、それ以外の求人は低調であり、全体の数字を押し上げるまでには至っていない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・募集広告の売上は、前年比で1割減となっている。ただ、ここ数か月の3割減と比較すると、減少幅は縮小している。売上を大きく落とした分野は加工製造卸売業であり、約3割の減少となっている。その他の主要業種は1割程度の減少となっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・管内の6月の新規求人数が前年比マイナス27.1%と前年を大きく下回った。また、有効求人倍率は0.31倍となっており、23か月連続で前年を下回った。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・6月の新規求人数は前年比で9.8%の減少となったほか、新規求職者数は前年比で4.1%の減少となった。月間有効求人倍率は0.32倍となり、前年の0.41倍を0.09ポイント下回った。
	やや悪くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求人数は前年比で16.2%減少し、32か月連続で前年を下回った。新規求人数は前年比で11.4%減少し、16か月連続で前年を下回った。

	学校〔大学〕 (就職担当)	周辺企業の様子	・採用環境において、買い手市場という意識はないが、厳選採用が顕著になりつつある。例年以上に学生が多く企業採用試験に挑んでいるが、これまで2～3回で行われていた採用試験回数が1～2回増えるなど、採用を慎重に行う傾向にあり、この時期に内定を得られない学生が増えている。
悪く なっている	職業安定所(職員)	求職者数の動き	・6月の有効求人倍率は0.27倍で前年を0.09ポイント下回り、8か月連続で前年を下回った。事業主都合離職者の大幅な増加もみられる。